

技が輝く



生地に線を打つ木版。
スケッチしたものを図案化し、彫る。



滋人さんの作業風景

生地に木版が押され、いくつもの線により模様が付けれられていく。そこに型紙を使って染料を摺り込む。

繰り返される作業に、繰り返される模様。



型紙の上から染料を摺り込む。

張り詰めた空気と集中力に満ちた仕事場。

そこから、人間国宝・鈴木滋人さんの技によって、「木版摺更紗」が生まれる。

滋人さんの作る木版摺更紗とは、父である故鈴木照次さんが、「鍋島更紗」を研究し、その技法を再興したものだ。

そもそも鍋島更紗とは、献上品として佐賀藩の保護を受けながら発展してきた染織品である。しかしその技法は一子相伝のため、継承者が途

佐賀県

木版摺更紗

絶え、姿を消してしまふ。幻の更紗とも言われていたこの鍋島更紗の復元に挑んだのが照次さんだ。

照次さんは謎に包まれた技法をひたすら探求し、その結果、木版と型紙を併用する技法であることを突き止め、「木版摺更紗」の名称を付ける。その後を継いだ滋人さんは、更に研究と技術の練磨を重ね、独自の清新な作風を確立した。

確かな技術と豊かな感性、優れた構成力によって生み出される滋人さんの作品は躍動感にあふれ、単純化された文様と限られた色の組み合わせが、逆に豊かな色彩を感じさせる。



【束生葉文】(そくせいはいもん)
ツワブキの葉が束生しているさまを図案化して表現。2008年制作



照次さんと滋人さん、親子二代で模索し、確立した技が、ここに輝いている。

〔鈴木滋人〕

昭和二十九年佐賀県鹿島市生まれ。平成二十年「木版摺更紗」の重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定

お問い合わせ

佐賀県社会教育・文化財課
TEL 〇九五二―二五―七二三二